

しまるこやま

第50号

平成30年7月20日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130
E-mail:daito-c@hotmail.com

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

光、東町南地内の県道上久野大東線は住宅密集地における狭隘道路として長年さまざまな問題を抱えていましたが、道路改良促進協議会の積極的な取り組みや地元地権者の皆様のご協力により、金成橋から宗専寺に抜けるバイパス道路が完成し、利便性の向上や、安全性の確保が図られることになりました。道路の供用開始は主要地方道松江木次線希望橋付近の工事が完成する11月上旬の予定です。

交通安全を祈願して
松江城鉄砲隊による
火縄銃演武の披露が
ありました



「大東地区の地域振興」について

大東地区振興会 会長 水戸 勝春

大東地区振興会の平成30年度役員改選におきまして、和田前会長の後任として私がその任に当たることになりました。地域の皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

大東地区振興会は、各自治会選出委員と各種活動団体選出委員で構成され、地区の地域振興に関わる主に三つの事業に取り組んでおります。

1. 地区のシンボルである丸子山公園の維持管理活動

「丸子山を愛する会」を立ち上げ、協賛団体と協力しながら年間を通じた清掃・管理活動を続けています。多くの地域の皆さんの積極的な参加を期待しております。

2. 市街地の活性化を目指したまちおこし事業の推進

町村合併以来叫ばれております連担地の衰退を防ぎ、にぎやかさを取り戻そうと「大東悠々会」

を組織し、「大東春まつり」「トラック市」の開催などのイベントを精力的に取り組んでおります。

3. 地域の生活基盤整備をめざす地域づくり活動

少子高齢化に伴う人口減少や空き家対策、移住・定住に関する相談、地域内の社会資本（道路・河川等）の整備改良等の取り組みを継続的に進めております。特に、雲南市との協働による「大東地区移住・定住相談室」の開設、事業推進は、人口減少対策に取り組む有効な手法として注目されています。

そのほか、それぞれの集落で推進される地域の活性化につながる取り組みに対しましても、積極的に協力・推進を図って行くこととしております。

引き続き、地区の皆様方の安心と安全確保に対する大東地区振興会活動に、ご理解とご協力をお願い致します。



丸子山清掃活動に参加いただいた地域の皆さん、大東高校生の皆さん

にがおえて
こんにちわ!

「薬と毒」

雲南市立病院 院長 大谷 順



紫陽花が色鮮やかな季節となりましたが、紫陽花には毒があることをご存知でしょうか？過去には彩として料理に添えられた紫陽花を食べて中毒になったという事故もありました。

さて、毒といえば、私たち医師が日ごろ治療目的で使う薬も、一歩間違えば毒となることをご存知でしょうか？薬と毒は一見別物のようですが、実は紙一重で、量や種類や使い方によって薬にも毒にもなるのです。例えば最近出た糖尿病の新薬は、量によっては死に至ることもあるトカゲの毒です。

以前から高齢者は不安感もあってか、市販薬も含め多くの薬を飲みがちと言われてきました。必要以上に多くの薬を飲むと、薬同士の相互作用などで体に害を及ぼすことが懸念されており、国も抜本的対策に向けて動き出しています。かかりつけ薬剤師やお薬手帳などがその例です。「あの医者薬を出さんのでヤブだ」と思われるかも知れませんが、多分、その医者は皆さんを危険な毒の害から守るために最小限の処方をしているのです。

(絵：大東町東町北 細田 滋)

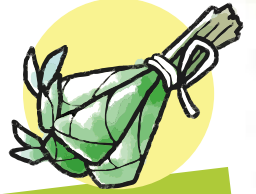
資料：雲南市HPより

平成30年 6月末現在の 人口・世帯数 〔()内は対前々月比〕	項目	総人口	男性	女性	世帯数	高齢化率
	雲南市	38,819人 (▲63人)	18,683人 (▲37)	20,136人 (▲26人)	13,821世帯(▲10世帯)	37.88% (+0.06%)
	大東町	12,377人 (▲38人)	6,014人 (▲13人)	6,363人 (▲25人)	4,174世帯 (▲3世帯)	37.75% (+0.09%)
	大東地区	3,601人 (▲14人)	1,724人 (▲6人)	1,877人 (▲8人)	1,251世帯 (▲5世帯)	—

伝えたい 残したい

ふるさとの味 笹巻づくり

東町明寿会会長 難波 幸夫



この笹巻づくりが東町明寿会で始まったのは亡き梅会長の時代からで、おおよそ14年くらい続いています。当日は5～6名の男性で目的の山に出かけ、軽トラいっぱい笹を積んで帰ります。その笹を女性の皆さんが仕分をし、団子を巻く笹、団子を包む柔らかな笹、団子を刺す串等に区分し、それぞれ水できれいに洗って準備完了です。笹巻に一番良い団子の粉は、事前にベテラン女性と男性によって調達されています。

本年度は腕に覚えのあるベテラン会員等28名が集まり、先輩女性の入念な巻き方指導を受けながら、冗談話で盛り上がる中、見る間に八百本の笹巻が出来上がりました。毎年この季節になると、懐かしい「ふるさとの便り」として、遠く離れた親戚や友人へ送り届けられ、皆さんに喜んでいただいています。



大東図書館が リニューアル しました



6月24日(日)、大東図書館の増改築工事に伴う竣工式典が行われ、関係者ら約60人が参加しました。式典の中で速水市長は「この大東図書館は、改修によりご利用いただく方に満足していただける図書館になったと思う。ここを生涯学習の推進の拠点の1つとして老若男女幅広い方々にご利用いただきたい。」とあいさつを述べられました。

式典後には地元「光舞ほたる」の皆様によるよさこい演舞が披露され、式典に華が添えられました。また、ほたるハウスさんによる「ほたるCafé」で飲み物等の販売が行われたり、絵本バッグづくりのワークショップ、ちっちゃい劇場と題した一人芝居も行われ、再開を待ちわびた多くの来館者でにぎわいました。



なお、この増改築により、図書館面積が、590㎡と、今までの約1.5倍の広さになり、学習スペースや郷土資料のコーナーなどゆったりとした配置となっています。(広報紙編集協力員 安部千愛)



お問い合わせ先／雲南市立大東図書館 tel.fax 0854-43-6131

助成金の ご案内



◆青少年育成活動助成金

地区民による自主的な青少年育成活動に対する大東生涯学習運営委員会からの助成金制度があります。(1団体上限3万円)

◆ふれあいいきいきサロン介護予防等活動助成金

気軽におしゃべりができる場所をつくるなど、「閉じこもり」「寝たきり」等の介護予防や、地域のつながりを深めることが目的のサロン事業に対して市社会福祉協議会からの助成金制度があります。(1団体上限1万円)

※ 詳細は大東交流センターにお問い合わせください。

まなびの泉

わらべ歌と絵本の読み語り

こぐまちゃんくらぶ 森山 友恵

大東図書館では平成14年にわらべ歌を中心にした「こぐまちゃんくらぶ」が発足し、現在毎月2回（月曜日）4人のスタッフで活動しています。

参加者は生後数ヶ月の赤ちゃんから3歳までの幼児が多いなか、小さなボールや、ネズミ、カエルなど手作り遊具を使い、楽しんでもらえるよう、工夫しながらやっています。

わらべ歌は私たちの心に響き、和やかな気持ちにしてくれます。お母さんに抱かれていた赤ちゃんが声を出し、笑顔になり、成長していく姿は私たちも嬉しく、また大きな力をもらいます。

今では町外からも参加があり、賑やかになりました。他地域の人ともいっぱい友だちを作ってほしいと思います。6月24日に大東図書館が新しくなりました。お話の部屋もでき、また新たなスタートが切れました。

お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん、私たちボランティアと一緒に子育てを楽しみませんか。たくさんのご参加をお待ちしています。くわしくは広報、図書館だよりをご覧ください。



元気な声が体育館いっしょに響いています

大東町少年剣道教室 河野 道治

大東町少年剣道教室は、毎週火曜日、金曜日の二回、午後7時から8時30分まで大東小学校体育館をお借りして、「不断練磨（稽古を休まず練習して腕を磨く）」をモットーに、礼法・作法の基本重視で大きな声を出しながら練習に励んでいます。

現在小学生団員12名、指導者8名で行なっていますが、剣道教室の発足は古く、昭和52年10月に大東町剣道連盟が創立されました。当時は他のスポーツ団体もなく、大東町内全域より120名が入団し、体育館狭しと稽古に励んだものです。その後、10年、20年と時が経つにつれて他のスポーツ少年団活動が活発となり、剣道教室団員が段々と減る結果になりました。しかし、少数ながらも日々の練習で心と体を鍛え、技を磨きながら雲南地区大会や県大会で優勝、準優勝する団員もいます。

団員には兄弟姉妹が多く、家族的な雰囲気の中で、剣道の良さや楽しさを分かち合っています。また、小学生時代に指導を受けた団員が大人になってこの教室を引っ張ってくれている指導者もいます。興味のある方は是非見学に来てください。



心身ともに大きく成長します

大東高校1年 舟木 哲汰（出雲北陵中学出身）

私たちは大東高校の2年生、1年生が2人ずつと大学生1人と管理人との計6人が同じ屋根の下で生活しています。この中の4人の高校生は親元を離れて暮らしています。なので今までは親にやっていた洗濯や茶碗などの洗い物を自分たちでやっています。耕心寮で生活して3ヶ月が過ぎ、当初あった不安というのも消え、いい人間関係が築けています。この耕心寮で生活して良いと思うことは『自立』ができるということです。今までの生

活とは違い、自分のことは自分ですというのが当たり前です。部活や勉強もあって大変だけど、人間的に成長できるいい機会だと思います。

私たちは野球部に所属していますが、地域の方々の野球部に対する支えがとても強く、本当に感謝しています。そして、今年は大東高校創立百周年、夏の大会百周年という節目の年です。その中での甲子園初出場というのが、地域の方々への最高の恩返しになると思うので、今年の夏に全てを懸ける気持ちで試合に臨んでいきます。



近畿大東会総会開催（第12回）

近畿大東会 通信員 藤原 洋二（金成下出身）

2年毎に開催の近畿大東会総会。12回目の総会を6月10日（日）大阪リバーサイドホテルで行いました。当日は来賓、会員あるいは会員の友人を含めて50名の参加。今回の総会が大東会として最後になるかどうかの議論を3月頃まで行っていました。大東会としての継続が決まり気持ちも新たに開催出来ました。但し出席された中で9名の方は退会されるため、それらの方にとっては最後の総会となりました。



来賓には大東から、大東町地域自主組織連絡協議会会長加藤一郎様（写真左）、雲南市大東総合センター所長中島豊様の2名にお越しいただきました。冒頭当会会長の景山からの挨拶（写真右）があり。来賓を代表して加藤様からは、自分自身のこれまでの経緯、また自主組織の説明等のお話をいただきました。「自主」という言葉を付けて行政を地域に任すという施策について、受け取り方は色々あると思いますが、どこも同じような取り組みをしているように思われました。



議事に入る前に雲南市からの依頼のふるさと納税、帰省時の木次線の利用促進等を説明し議事に移りました。H28・H29年度の事業・会計報告と会計監査報告。役員の変更の審議で承認をいただき、会則の改定、H30・H31年度の事業・予算計画の審議は新役員による進行で承認をいただきました。

総会の後懇親会に入り、オープニングは大阪大学落語研究部の大阪亭「留糸」さん（下写真）による演目は『壺算』。「高齢者の皆さん、だまされないように注意してくださいね!」という会員向けの忠告落語でした。



壺算

おかみさんから大きい壺を買いに行くように頼まれた旦那が頼りなく、口達者な源さんと行く。本当は大きい壺が欲しいが、小さい壺が大きい壺に化けると言って「小さい方は幾らだ」から切り出し2円50銭を2円に負けさせる。ここで一旦引き上げて再度元の瀬戸物屋へ。「この野郎が間抜けだから、本当は大きい壺が欲しいんだとさ」と再交渉。大きいのは倍値だから本来5円だが、さっき小さいのを2円に値切ったので、その倍の4円とさせた上で、「狭い台所で二つあっても邪魔だから小さい方を元値で取ってくれ」と源さん。「さっき、2円渡したな。て、この小さい壺を2円で取ってもらう。てえと、2円と2円で4円。それでこの大きい壺、もらってくぜ」何だか変だと思ったが計算は合っているようなので、「へい」と答えてしまったが、どう考えてもおかしい…

前事務局長の高橋潮さんの音頭で乾杯。飲食しながら大東総合センター所長中島様（右写真）からの大東の近況報告はスクリーンに映し出しての説明。

特に雲南市立病院は健康維持増進のための機能を、また河北地区の七夕の準備から祭りまでの様子が放映され、このまま絶えることなく伝統を守って欲しいと願う。

報告書の中に各地域の自主組織からのメッセージをいただきましたが、どの地区も一生懸命に取り組んでおられる姿が伺え、その地に合った活動を継続させて定住者が増えるようになれば良いと願っています。メッセージ本当にありがとうございました。

会員の中から大東の宿泊施設が少ないとの声のある中で、ゲストハウスが出来つつあることは嬉しい限りで更なる詳細な情報を期待しております。

大東会も会員数は50数名と減りましたが新体制で臨みます。会員を増やすため、町内の皆さん近畿にお住いの方を是非紹介ください。上部組織の「雲南市近畿ふるさと会」もH31年度からの新体制に向けて色々と議論されております。その中で大東会の役割を十分に果たし、故郷とのつながりを更に深くしたいと思っております。

大東会としてまるこやま21号（H25/9）から寄稿しておりましたが今回の50号をもって終わりとさせていただきます。5年間にわたりありがとうございました。



- ・大東町（新庄南）内部 悦子 様（香典返し）
- ・大東町（中 町）青砥 裕二 様（香典返し）
- ・大東町（新庄南）山根 敬子 様（香典返し）
- ・横浜市（神田町出身）大坂 幸夫 様（一般寄付）
- ・大東町（新庄南）水戸 勝春 様（一般寄付）
- ・大東町（川 西）勝部 智子 様（一般寄付）
- ・大東町（神田町）大東市民ゴルフ代表光谷唯視 様（一般寄付）

事務局 TEL.43-2130

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。

郷土の暮らしと文化

「家庭寮」から「耕心寮」へ ～大東高校寄宿舎今昔～

元大東高校教員 青木 愛治

昭和4年4月に誕生した大東高等実業女学校には開校後しばらくの間専用の寄宿舎がなく、寮生たちは大東町大木原地区の吉木定義氏宅内の養蚕室を改築した建物を借りて寮生活を送っていた。

待望の専用寄宿舎（平屋建て）は12年3月14日、道路を隔てた校舎南側の赤川河畔に竣工し、「家庭寮」と命名された。後の大東高女時代の19年9月には、既存の「本寮」西側に2階建ての「新寮」が建設され、新制大東高校の生徒たちも利用したが、交通機関の発達により30年代の終わり頃から利用者が激減し、44年度と45年度に季節寄宿舎として女子10名前後が利用したのを最後に閉舎された。

以後、部活動の合宿所などとして使われていたが、痛みがひどく、52年に大規模な改装が行われたのを契機に「耕心寮」と改称された。

その後も合宿や茶道部の稽古などで利用され、平成15年にはトイレの水洗化などの改良工事もなされたが、老朽化にはあがらず、22年6月に解体・撤去された。

（写真）大東実女時代の「家庭寮」、9期生の頃には手さげカバンに替えて背負いのランドセルが使われるようになった。



大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。（編集委員会）



この人に聞く

なかいちとせ
中井千登世さん（新庄南在住）

今回登場いただくのは、日々ボランティア活動を積極的に行っておられる中井千登世さんです。彼女は丸子山を愛する会[1年数回の清掃活動に参加]、雲南病院ボランティアの会[1回/月通院患者の介助]、大東小学校ボランティア[8年前からミシンボランティアとして家庭科の縫製授業の指導補佐]、通学児童の見守り[登下校する児童の事故防止・安全確保のため、毎朝、通学路に立ち、挨拶運動も兼ねて継続中]、大東町女性のつどい[警察署の協力も得て、寸劇を発表する等防犯活動]、生涯学習運営委員会[サマーキャンプ等青少年健全育成活動]等々世の為人の為、また自分の為に一生懸命取り組んでおられる方です。



Q いろいろなボランティア活動に参加されるきっかけは？

私がこうして元気で生活できるのも皆さんのおかげで、何かお返しができないかと考えた末にたどり着いたのが各種ボランティア活動です。

Q 趣味も多彩なようですが？

墨絵（水墨画）をやっています。40代を迎え、生涯を通してしっかりとした趣味を持ちたいと先生を紹介して頂き、平成7年から始めました。紙に向かい、書き始めると集中して一気に書き上げるのが基本ですが、墨の濃淡で遠近感、陰と陽を表現します。特に遠近感を表現するのがむずかしいところです。ありがたいことに、日本総合水墨画展に入選し東京美術館に展示、また、島根県美術文化祭で入選し県立美術館に展示されたこともありました。現在、幡屋交流センターで水墨画教室を月1回開催し、生徒さん達と楽しんでいます。

日本舞踊もしています。師範の資格（豊翔）を取ってから13年になり、今は月1回のお稽古に出かけています。コーラスも楽しいですよ。大東町民合唱団「ミューズエコー」には、結成当初から入団して約21年、今も月3回の練習も殆ど欠かしたことはありません。グループ全員が心一つに、腹のそこから童謡、愛唱歌を歌うと時間を忘れず。

このような話を聞きながら、充実した日々を送っておられる中井さんの活力源が見えてきたように思います。これからもお元気で活躍を！！